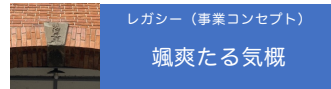


「魅力と価値を共感できる世界遺産へ」 富岡製糸場を核としたレガシー形成事業 報告書（概要）

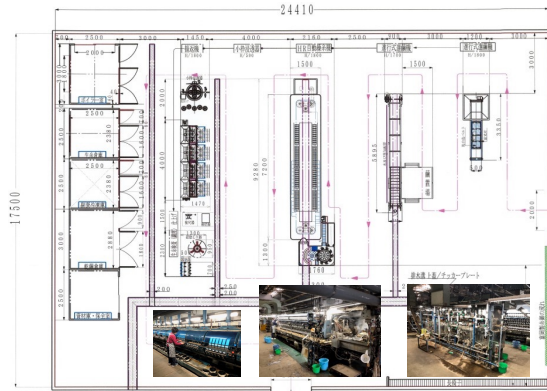
令和7年3月 国土交通省 関東運輸局



生糸生産・動態展示の概略設計

- ブリュナエンジン展示施設の跡地（2026年度移設予定）を候補地として、仮設建屋による生糸生産・動態展示を計画。
- 碓氷製糸の小型煮繭機（HSB型進行式煮繭機）を設置。
 - 碓氷製糸の自動繰糸機4号1セット（富岡と同一型）を改修・移設。
 - 製糸用水は水道水、排水は基準内であれば公共下水へ。
 - 稼働後は、碓氷製糸の技術指導の下で技術者を育成しながら製糸。

概算工事費：機械設備3.8億円+仮設建屋2.1億円＝5.9億円



寄宿舎（妙義寮・浅間寮）の概略設計

- 昭和15年竣工。片倉時代に建設されたもの。屋根を中心に破損が進むほか部分的に雨漏りの影響による仕上げ及び床組の損傷が進行。
- 現状修理を基本とした屋根葺替・部分修理を想定。基礎の補強も検討が必要。瓦葺屋根を空葺きとして必要な耐力要素を減らしつつ、現状平面に存在する全壁等を補強壁とする方向で耐震補強を行う。
 - 妙義寮の2階部分は、教育旅行等の学生、観光客、研究者、絹産業研修生、アーティスト等が滞在する滞在施設8室（1泊～数ヶ月程度滞り）、1階部分を共用キッチン+コワーキングスペース+工房スペース等とすることを想定。
 - 浅間寮は、工女の生活の営みの変遷をたどる公開施設を想定。
 - 隣接する洗濯場は、滞り者用のランドリーとして活用。

概算工事費：保存修理5.4億円+活用2.1億円＝7.5億円

- 活用工事を民で全額負担することを前提にすると経営は難しいと試算。活用工事についての一定の補助金導入、浅間寮の滞在施設としての活用等の事業性を高める工夫が必要となる。



区分	施設名	活用法	
国宝	東置繭所	総合案内、ショップ、ギャラリー、事務所	世界遺産 ミュージアム
	西置繭所	展示室、多目的ホール、カフェ、ラボ	
	繰糸所	繰糸機動態展示	
重要文化財	候門所	ホテルフロント	世界遺産 ホテル
	検査人館	カフェ、店舗、ホテル客室	
	女工館	ホテル客室	
	蒸気釜所	（要検討）	
	首長館	フレンチレストラン ※本事業で概略設計	
その他の 史跡建築物	鉄水溜	（要検討）	
	社宅71	ホテル客室	
	その他社宅（6棟）	ホテル客室	
	寄宿舎（浅間寮）	公開施設 ※本事業で概略設計	
	寄宿舎（妙義寮）	クリエイターインレジデンス ※本事業で概略設計	
	寄宿舎（棟名寮）	シェフインレジデンス ※本事業で概略設計	

目指すべき姿

- 世界遺産ミュージアム、世界遺産ホテルが稼働し、繰糸所で生糸が生産されている。
- 寄宿舎では学生や社会人が滞りてシルク産業を学んでいる。
- バッファゾーンでは住民主体のまちづくりが展開されている。空き家が活用され、生糸をはじめとする様々なデザイン工房、ギャラリー、店舗等が開業し、若者や子供が増えている。
- 製糸場内外で、多様なレストラン、宿泊施設が営業している。
- 製糸場には年間100万人が来場、入場料収入14億円やテナント料収入によって富岡製糸場は自律的に運営している。
- 製糸場に関わる全ての人々が「颯爽たる気概」を抱いている。

首長館・棟名寮の概略設計

- 首長館は明治6年頃に建設、明治8年の首長ブリュナ帰国後は工女の寄宿舎・学校、娯楽施設などに利用され、大きく改変されている。
- 屋根葺替・部分修理を行なうことを想定。建築当初の史料も確認できないため、改変された姿での保存修理を行う。
 - 西置繭所でも採用された鉄骨による耐震補強が有効と考えられる。当初平面と小屋組トラスの配置は関連性があることから、当初平面の壁位置を参考にしつつ、鉄骨を配する方法を採用したい。

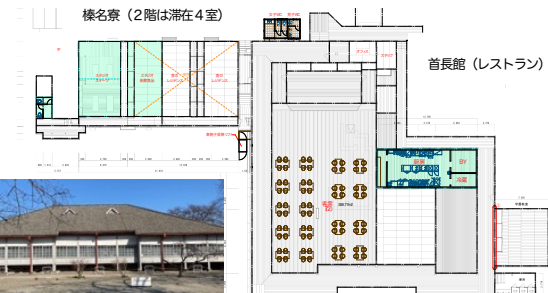
棟名寮は昭和の初め頃に竣工した寄宿舎（首長館も寄宿舎として使っていた）。

- 屋根葺替・部分修理を行なうことを想定。
- 瓦葺屋根を空葺きとする、全壁を補強壁とする方向で耐震補強。

重要文化財である首長館は、フレンチレストランBRUNAT（仮称）として活用することを想定。棟名寮は、テストキッチン付きの滞在施設とすることを想定。料理人やパティシエ等の人材育成の拠点としたい。

概算工事費：保存修理9.5億円+活用1.7億円＝11.2億円

- 活用工事を民で全額負担することを前提にしても、棟名寮も含めた経営が可能であると試算。



バッファゾーンにおける景観まちづくりの検討

- 中心商店街の変遷、空き家の状況と課題、まちづくりの展望などについて、富岡市関係者や地域のキーパーソンから意見を収集して、以下のとおり、まちづくりの方向性を設定。また、中心市街地に60軒以上の空き家を確認。再生検討候補24物件のうち3件について、所有者ヒアリング及び内覧調査を実施して活用プランを作成。
- 広くデザイン・アートのクリエイティブな活動に挑戦し発信し続ける場所づくりをイメージ。
 - まちづくりの担い手不在の現状を打開するため、クリエイティブな人材誘致に向けた働きかけや、空き家活用を支援。
 - 二町・三町空地は、中心市街地の環境改善・修景整備の模範となる公園・広場として整備。

